

令和5年度

千葉県公立高等学校入学者選抜
学力検査結果の概要

千葉県教育委員会

目 次

I	概 要	2
II	出題方針（本検査・追検査共通）	4
III	【本検査】教科別の結果	6
IV	【本検査】受検者の得点分布	16
V	【追検査】教科別の結果	18
VI	指導のポイント	28

I 概 要

1 はじめに

令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜では、一般入学者選抜等の本検査及び追検査において学力検査を実施した。その結果等をもとに作成した「学力検査結果の概要」を、本県中学校及び高等学校において教科指導向上のための資料の一つとして御活用願いたい。

2 実施日、教科

本検査の学力検査は、令和5年2月21日（火）に国語・数学・英語、22日（水）に理科・社会を、国語・社会・数学・理科は各教科50分、英語は60分、各100点満点で実施した。

追検査の学力検査は、令和5年3月1日（水）に国語・社会・数学・理科・英語を、国語・社会・数学・理科は各教科50分、英語は60分、各100点満点で実施した。

3 調査の対象

本結果は、令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜における一般入学者選抜の本検査及び追検査の学力検査で、全日制の課程（特別入学者選抜、地域連携アクティブスクール4校を除く。）を受検した者（本検査第1日33,806名、第2日33,795名）の結果等についてまとめたものである。

なお、本検査の正答率・無答率については、各教科とも全日制の課程の全受検者のうちから抽出した答案（全体の約10%）によって算出した。追検査は、受検者が少ないことから、平均点及び正答率・無答率を記さなかった。

4 学力検査問題の特徴

学力検査問題の作成に当たっては、各教科とも中学校学習指導要領に基づき、総合的な力をみることができるよう配慮した。

令和5年度の学力検査問題の特徴は、次の2点である。

- 基礎的・基本的な事項の正確な理解度をみることができるよう、複数の解答について全て正しい場合にのみ正解とする問題や、理由を書かせる問題を設定した。
- 学習した基礎的な知識を応用して答えを導く問題や、思考力、判断力、表現力等を総合的にみることができるような問題を設定した。

上記2点を柱に、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、学習活動を通して確かな学力を身に付けているかをみる問題を充実させた。

5 結果の概要

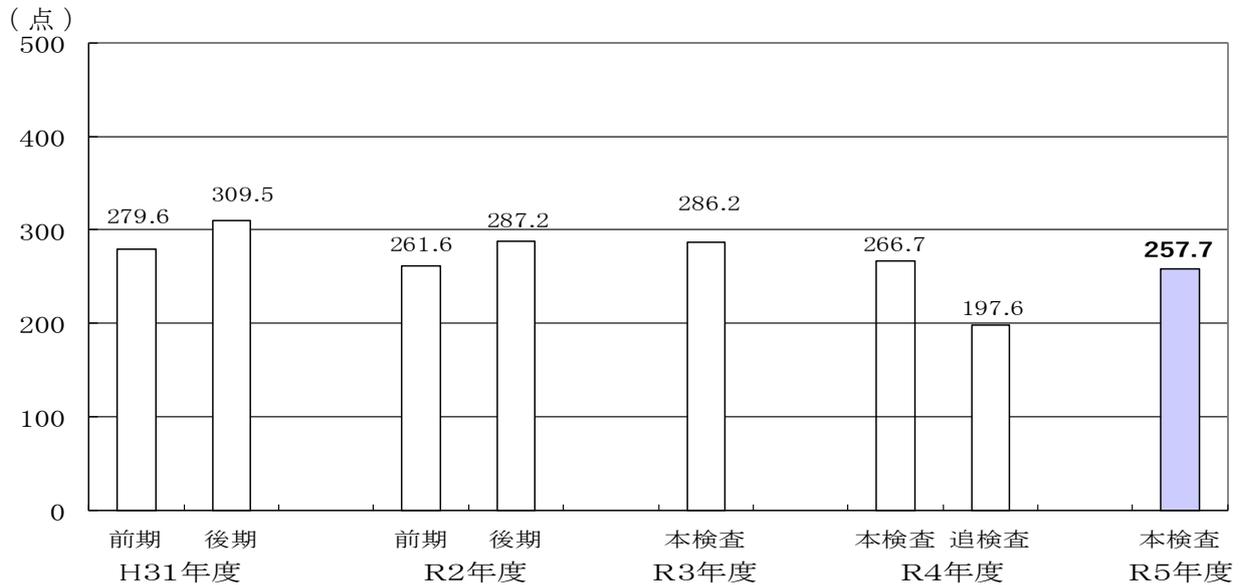
【表】各教科及び5教科の平均点

()内は標準偏差

		国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	5 教 科
令和 5 年度	本検査	47.9 (15.5)	54.5 (19.8)	47.0 (18.8)	60.7 (21.9)	47.6 (23.2)	257.7 (90.6)
	追検査						
令和 4 年度	本検査	47.7 (16.7)	56.3 (21.3)	51.5 (21.2)	52.7 (21.4)	58.7 (23.9)	266.7 (94.3)
	追検査	50.6 (16.9)	50.3 (23.2)	38.6 (20.0)	45.1 (20.2)	46.9 (23.5)	197.6 (109.0)
令和 3 年度	本検査	52.8 (17.7)	57.7 (21.3)	59.3 (21.3)	54.6 (18.7)	61.7 (26.1)	286.2 (94.0)
	追検査						

※令和3年度及び令和5年度追検査については、受検者が少ないことから、平均点を記していない。

【図】5教科の平均点の経年変化



各教科及び5教科合計の平均点は、【表】に示したとおりである。

また、5教科の平均点の経年変化を【図】に示した。令和5年度の本検査の5教科の平均点を見ると、前年度の本検査より9.0点低かった(令和3年度及び令和5年度追検査については、受検者が少ないことから、平均点を記していない)。

なお、本検査受検者の得点分布については、16、17ページに示した。

Ⅱ 出題方針（本検査・追検査共通）

1 国 語

- ア 学習指導要領に基づき、国語の基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 様々な文章について、内容を的確に理解し、書き手の伝えたいことなどを考察する力をみることができるようにした。
- ウ 自分の立場や考えとその根拠が明確になるように、複数の情報を整理し判断する力をみることができるようにした。
- エ 言葉による見方・考え方を働かせ、自分の言葉で考えを適切にまとめたり、相手に的確に伝えたりする力をみることができるようにした。

2 社 会

- ア 学習指導要領に基づき、地理的分野、歴史的分野及び公民的分野からバランスよく出題し、学習の成果を総合的にみることができるようにした。
- イ 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようになるとともに、現代社会の諸問題に対する理解の程度をみることができるようにした。
- ウ 統計や地形図、写真などの諸資料を活用し、社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を判断・分析する力、そしてそれを表現する力をみることができるようにした。
- エ 現代社会の諸課題の解決に向けて、多面的・多角的に考察する力や筋道を立てて思考する力をみることができるようにした。

3 数 学

- ア 学習指導要領に基づき、数学的な見方・考え方を働かせながら行う数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 数学の基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようにした。
- ウ 数学を活用して事象を論理的に考察する力、統合的・発展的に考察する力及び表現する力をみることができるようにした。
- エ 問題解決のために、数学を活用して粘り強く考える力をみることができるようにした。

4 理 科

- ア 学習指導要領に基づき、第1分野及び第2分野からバランスよく出題し、学習の成果を総合的にみることができるようにした。
- イ 自然の事物・現象についての基礎的・基本的な事項の知識や、観察、実験の技能を身に付けているかをみることができるようにした。
- ウ 観察、実験のデータ及び図や表などを活用し、理科の見方・考え方を働かせ、結果を分析して解釈する力、そしてそれを表現する力をみることができるようにした。
- エ 日常生活の中で起こる現象や身近な事物について進んで関わり、科学的に探究しようとしているかをみることができるようにした。

5 英 語

- ア 学習指導要領に基づき、英語の基礎的・基本的な知識及び技能と、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、理解したり表現したりする力を全領域にわたり身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 「聞くこと」の領域では、音声を通して、対話文やまとまりのある文章から話し手の意向や大切な事柄を聞き取り、適切に判断して答える力をみることができるようにした。
- ウ 「読むこと」の領域では、日常的・社会的な話題に関する文章や図表、イラスト等から、必要な情報、概要や要点を読み取り、適切に答える力や、読み取った情報を基に思考し、判断する力をみることができるようにした。
- エ 「話すこと [やり取り]」及び「話すこと [発表]」と「書くこと」の領域では、日常的・社会的な話題について、基本的な語句や文を用いて話したり伝え合ったりする力及び自分の考えなどを英語でまとめ、適切に書く力をみることができるようにした。

Ⅲ 【本検査】教科別の結果

1 国 語 (本検査)

(1) 出題内容等

学習指導要領の趣旨に沿って、基礎的・基本的な〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕が適切にみられるようにした。

大問一（聞き取り検査）は、文化祭でミュージック・カフェを催すにあたり、その宣伝文句について相談している場面を放送で聞き、話し手の表現に着目することで、その視点を捉え、他者に的確に伝わるような表現を考える問題である。

大問四（説明的な文章）(5)は同じ著作の関連する箇所を、また、大問五（文学的な文章）(5)及び大問六（古典）(4)は、授業でそれぞれの文章を読んだ生徒の話し合いの場面を別資料として提示し、複数資料の分析を通じてさらに深く読み解き、適切に自分の考えを表現する力をみる問題である。

大問七（条件作文）は、諸外国との文化交流について、「文化に関する世論調査 報告書」の年齢別の割合を示した表を手がかりに自分の考えを整理し、的確に伝わる文章となるように工夫して書く問題である。

(2) 正答率の概況

抽出答案数=3,376

領域(事項)	問題・配点	正答率(%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	二、三、四(1) 20点	71.8
情報の扱い方に関する事項	四(5)、五(5)、六(4) 30点	32.0※
我が国の言語文化に関する事項	六(1)(2)(3) 8点	35.0※
話すこと・聞くこと	一 8点	72.2
書くこと	七 12点	36.8※
読むこと	四(2)(3)(4)(6)、五(1)(2)(3)(4) 22点	53.5

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結果の説明

全体の平均点は47.9点で、前年度と比べて0.2点高くなった。

領域(事項)別の正答率は、「話すこと・聞くこと」が72.2%と最も高く、次いで、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が71.8%であった。一方、「情報の扱い方に関する事項」が32.0%と最も低かった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問二「漢字(読み)」(1)「招(いて)」、(3)「曖昧」及び(2)「慎(む)」であった。一方、正答率が低かった問題は大問五の(5)(c)X「文章中の表現についての理解と表現(30字以上、40字以内)」、大問五の(2)I「文章の内容の理解と表現(7字以内)」及び大問四の(5)III「文章の内容の理解と表現(15字以上、20字以内)」であった。

無答率が高かった問題は、大問五の(5)(c)X「文章中の表現についての理解と表現(30字以上、40字以内)」、大問四の(5)III「文章の内容の理解と表現(15字以上、20字以内)」及び大問五の(5)(c)Y「文章中の表現の理解(2字)」であった。

(4) 問題の内容

問	問題の内容			問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
				選択	短答	記述				
一	(1)	放送による聞き取り 文化祭のクラスの催し物について相談している場面	会話の理解	○			37.9	0.1		
	(2)		会話の流れの理解	○			76.0	0.1		
	(3)		会話の流れの理解	○			83.9	0.1		
	(4)		会話の流れを受けてのまとめ	○			91.0	0.0		
二	(1)	漢字 (読み)	招 (いて) [まね]		○		98.3	0.2		
	(2)		慎 (む) [つつし]		○		92.1	1.4		
	(3)		曖昧 [あいまい]		○		96.4	0.9		
	(4)		辛辣 [しんらつ]		○		77.0	4.1		
三	(1)	漢字 (書き)	浅 (い)		○		90.0	4.9		
	(2)		拝 (む)		○		65.2	17.0		
	(3)		批評		○		69.8	7.6		
	(4)		創刊		○		28.2	29.8		
	(5)		序列		○		57.5	20.4		
四	(1)	説明的な文章 『モチベーションの心理学』	品詞の識別	○			43.3	0.5		
	(2)		文章の内容の理解	○			74.0	0.8		
	(3)		文章の内容の理解 (完答)	○			72.7	0.1		
	(4)		I	文章の内容の理解 (5字)		○		45.9	26.7	
			II	文章の内容の理解 (13字)		○		24.7	41.9	
	(5)		I	文章の内容の理解		○		70.1	8.4	
			II	文章の内容の理解 (3字)		○		19.9	49.3	
			III	4点	文章の内容の理解と表現 (15字以上、20字以内)			○	6.4	56.6
	1~3点 無答						5.3			
	(6)		文章の構成の理解	○			56.2	6.7		
五	(1)	文学的な文章 『風を彩る怪物』	文章中の表現の理解	○			75.3	1.3		
	(2)		I	文章の内容の理解と表現 (7字以内)			○	7.0	35.4	
			II	文章の内容の理解と表現 (8字以内)			○	40.0	28.4	
	(3)		登場人物の心情の理解	○			75.9	3.0		
	(4)		登場人物の心情の理解	○			63.5	5.2		
	(5)		(a)	I	文章中の表現の理解 (5字)		○		64.8	20.1
			(b)	II	文章中の表現の理解 (11字)		○		15.2	22.3
				4点 1~3点 無答	文章中の表現の理解	○			48.3	15.1
	(c)		X	文章中の表現についての理解と表現 (30字以上、40字以内)			○	2.0	73.9	
			Y	文章中の表現の理解 (2字)			○	3.2		
(6)	文章中の表現の理解 (2字)			○	10.6	50.0				
六	(1)	古典 『宇治拾遺物語』	歴史的仮名遣い		○		63.5	4.5		
	(2)		文章の内容の理解	○			19.7	4.9		
	(3)		4点	登場人物の心情の理解と表現 (20字以上、25字以内)			○	12.7	39.7	
			1~3点 無答				18.1			
	(4)		(a)	文章の内容の理解と表現 (5字以上、10字以内)			○	9.7	43.4	
			(b)	登場人物の心情の理解	○			34.3	15.3	
(c)		漢文訓読法			○	66.9	11.1			
七	12点	条件作文 「日本と諸外国との文化交流を進めることの意義」について	条件をふまえて書く二段落構成の作文 (200字以内) ・前段は資料から読み取ったことと、自分の考えを書く ・後段はどのような文化交流を行いたい か、理由を含めて考えを書く				9.6	13.4		
	8~11点						18.3			
	4~7点					○	23.0			
	1~3点						13.3			
	無答									

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが該当の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

2 社 会（本検査）

（1）出題内容等

各分野において、「基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができる問題」を出題した。

「現代社会の諸課題に対する関心や理解の程度をみることができる問題」を多く出題した。具体的には、大問**1(2)**、大問**2(2)(3)**、大問**7(2)**、大問**8(1)(2)**である。

「諸資料を活用し、社会的事象を判断・分析する力をみることができる問題」を多く出題した。具体的には、大問**1(4)**、大問**2(2)**、大問**3(5)**、大問**6(3)**、大問**7(3)**である。

「社会的事象について、自らの思考を表現する力をみることができる問題」を、地理的分野、歴史的分野、公民的分野からそれぞれ1問ずつ出題した。具体的には、大問**2(3)**、大問**5(4)**、大問**7(3)**である。

総合問題と歴史的分野において、できごとなどを年代の古いものから順に並べ替える問題を、総合問題から1問、歴史的分野から2問出題した。具体的には、大問**1(1)**、大問**4(3)**、大問**5(2)**である。

（2）正答率の概況

抽出答案数=3,380

分 野 ・ 内 容		問 題・配 点	正答率 (%)	
総 合	総 合 問 題	1 12点	49.1	
地理的分野	日 本 地 理	2 16点	75.0※	72.0※
	世 界 地 理	3 15点	69.0	
歴史的分野	前 近 代 史	4 15点	50.4	48.3※
	近 ・ 現 代 史	5 16点	46.2※	
公民的分野	国民生活と経済・社会	6 10点	48.7	45.5※
	日本の政治制度	7 10点	46.3※	
	国際社会	8 6点	39.4	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

（3）結果の説明

全体の平均点は54.5点で、前年度と比べて1.8点低くなった。

分野・内容別の正答率は、地理的分野の「日本地理」が75.0%と最も高く、公民的分野の「国際社会」が39.4%と最も低かった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問**3(4)**「オーストラリアの地域と国旗の特徴」、大問**5(1)**「岩倉使節団」及び大問**2(2)**「都市部の防災施設」であった。一方、正答率が低かった問題は、大問**5(4)**「満州国の建国に関する記述」、大問**7(3)**「国会の種類に関する記述」及び大問**6(2)**「金融の種類」であった。

無答率が高かった問題は、大問**5(4)**「満州国の建国に関する記述」、大問**7(3)**「国会の種類に関する記述」及び大問**6(2)**「金融の種類」であった。

(4) 問題の内容

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選択	短答	記述			
1	(1)	総合問題	廃藩置県のことから		○	38.5	0.1	
	(2)		ヒートアイランド現象のことから		○	79.6	6.1	
	(3)		公共サービスのことから		○	52.0	0.2	
	(4)		山地面積、海岸線の長さ、人口増減率、海水浴場数、スキー場数に関する資料の読み取り		○	26.4	0.2	
2	(1)	日本地理	7 地方区分、静岡県のことから		○	79.5	2.2	
	(2)		都市部の防災施設		○	86.0	0.1	
	(3)		4点	京都市のまちづくりについての記述		○	49.1	6.1
			1~3点				20.8	
			無答					
	(4)		①	新旧の地形図の変化や方位、地図記号等の読み取り		○	71.2	0.2
②		地形図の等高線の読み取り		○	78.8	0.1		
3	(1)	世界地理	メルカトル図法中における経線と赤道の読み取り		○	35.1	0.0	
	(2)		時差		○	59.2	0.1	
	(3)		アメリカ合衆国の農業地域の特徴		○	83.4	0.1	
	(4)		オーストラリアの地域と国旗の特徴		○	89.9	0.7	
	(5)		韓国・フランス・インドネシア・日本の人口、固定・携帯電話100人あたりの契約数に関する資料の読み取り		○	77.5	0.2	
4	(1)	前近代史	弥生時代のことから		○	29.3	0.1	
	(2)		口分田		○	70.7	9.1	
	(3)		鎌倉時代のことから		○	25.7	0.5	
	(4)		天保の改革		○	73.6	0.2	
	(5)		江戸時代の貿易		○	52.7	0.1	
5	(1)	近・現代史	岩倉使節団		○	86.4	0.0	
	(2)		日清戦争から第一次世界大戦までのことから		○	24.1	0.3	
	(3)		ワシントン会議		○	39.3	1.0	
	(4)		4点	満州国の建国に関する記述		○	7.0	22.5
			1~3点				9.9	
(5)	大阪万博		○	69.1	0.2			
6	(1)	経済	消費者を守る制度		○	78.8	0.1	
	(2)		金融の種類		○	15.4	17.4	
	(3)		商品やサービスの購入を検討する際に情報を得ているものに関する資料の読み取り		○	52.0	0.3	
7	(1)	政治	人権思想の歴史		○	59.3	0.3	
	(2)		情報公開制度		○	66.2	12.5	
	(3)		4点	国会の種類に関する記述		○	10.2	18.9
			1~3点				6.5	
(3)	無答							
8	(1)	国際	地域統合		○	53.8	0.4	
	(2)		TPP		○	24.9	9.0	

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが該当の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

3 数 学 (本検査)

(1) 出題内容等

大問1は、各領域の基本的な問題である。

大問2の(2)は、正方形 ABCD の点 A と点 C が2直線上にあるとき、条件を満たす点 D の座標を求める問題である。

大問3は、円周角の定理を利用し、2つの三角形が相似であることを証明するとともに、図形の性質を利用して線分の長さを求める問題である。

大問4は、じゃんけんを用いたゲームに関する会話文や表から、正確に情報を読み取り、文字を用いた式やことば等で表現する問題である。

(2) 正答率の概況

抽出答案数=3,376

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	正答率 (%)	
数 と 式	正の数と負の数	1(1)①、4(1)①(a)(c) 9点	77.4	53.9※
	文字を用いた式	1(1)②、 4(1)②(d)(e) (2) 17点	28.9※	
	簡単な多項式の計算	1(1)③ (2)① 8点	69.0	
	根号を含む式の計算	1(2)② 3点	53.6	
図 形	平 面 図 形	1(4)① (7)、3(1)③ 19点	42.0※	34.7※
	空 間 図 形	1(4)② 3点	29.7	
	図 形 の 相 似	3(2) 6点	10.7※	
関 数	関 数 $y = ax^2$	1(6)①② 6点	55.1	46.3
	一 次 関 数	2(1)①② (2) 15点	40.4	
データの活用	データの分布	1(3)①② 6点	73.3	59.1
	不確定な事象の 起こりやすさ	1(5)①②、4(1)①(b) 8点	49.6	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結果の説明

全体の平均点は47.0点で、前年度と比べて4.5点低くなった。

領域・内容別の正答率は、数と式の「正の数と負の数」が77.4%と最も高く、図形の「図形の相似」が10.7%と最も低かった。

また、次の表にあるように、数と式の領域では、大問1の(1)①「正の数と負の数(四則計算)」の正答率が94.7%と最も高く、大問4の(2)「文字を用いた式」の正答率が最も低かった。

図形の領域では、大問3の(1)「平面図形(円周角と中心角の関係)」の正答率が80.9%と最も高く、大問3の(3)「平面図形(相似の応用)」の正答率が0%と最も低かった。

関数の領域では、大問2の(1)①「一次関数(点のx座標)」の正答率が89.0%と最も高く、大問2の(2)「一次関数(点の座標)」の正答率が4.4%と最も低かった。

データの活用の領域では、大問1の(3)②「データの分布(度数分布表・箱ひげ図)」の正答率が78.4%と最も高く、大問1の(5)①「不確定な事象の起こりやすさ(場合の数)」の正答率が46.9%と最も低かった。

無答率が高かった問題は、大問4の(2)「文字を用いた式」、大問2の(2)「一次関数(点の座標)」であった。

(4) 問題の内容

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
			選択	短答	記述				
1	(1)	①	数と式	正の数と負の数 (四則計算)		○	94.7	0.2	
		②		文字を用いた式 (四則演算)		○	77.8	1.9	
		③		簡単な多項式の計算 (式の展開)		○	72.1	1.4	
	(2)	①		簡単な多項式の計算 (因数分解)		○	65.8	5.7	
		②		根号を含む式の計算		○	53.6	6.6	
	(3)	①		データ	データの分布 (相対度数)		○	68.2	7.3
		②	データの分布 (度数分布表・箱ひげ図)	○		78.4	0.6		
	(4)	①	図形	平面図形 (正方形の対角線の長さ)		○	66.7	4.0	
		②		空間図形 (正八面体の体積)		○	29.7	18.0	
	(5)	①	データ	不確定な事象の起こりやすさ (場合の数)		○	46.9	0.9	
		②		不確定な事象の起こりやすさ (確率)		○	52.7	2.6	
	(6)	①	関数	関数 $y = ax^2$ (点のy座標)		○	87.4	3.6	
		②		関数 $y = ax^2$ (xの変域・yの変域)		○	22.8	14.3	
	(7)	6点	図形	平面図形 (作図)		○	17.0		
		3点			6.5				
		無答					27.2		
	2	(1)	関数	一次関数 (点のx座標)		○	89.0	3.6	
一次関数 (一次関数の式)					○	27.9	34.7		
(2)		一次関数 (点の座標)			○	4.4	58.0		
3	(1)	図形	平面図形 (円周角と中心角の関係)	○	○	80.9	0.6		
	(2)		図形の相似 (三角形の相似の証明)		○	8.7			
				4.0					
						33.8			
(3)	平面図形 (相似の応用)		○	0	46.9				
4	(1)	①	(a) 数と式	正の数と負の数		○	83.8	1.6	
			(b) データ	不確定な事象の起こりやすさ (場合の数)		○	49.2	4.4	
			(c)	正の数と負の数		○	53.6	6.9	
			(d)	文字を用いた式		○	27.1	37.5	
	(2)	②	数と式	(e)	文字を用いた式		○	8.6	52.0
				4点	文字を用いた式		○	1.5	
						2点		1.2	
						無答			82.8

※ 正答率の「0.0%」はごくわずかではあるが該当の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

4 理 科 (本検査)

(1) 出題内容等

学習指導要領に基づいて、基礎的・基本的な知識・技能の習得、科学的なものの見方や思考力・判断力・表現力を身に付けているかをみることができるようにした。本年度も「観察、実験を題材とした問題」、「身近な生活に関わりのある問題」を出題した。小問集合以外では、「観察、実験を題材とした問題」は大問**2・3・4・5・6・7・8・9**、「身近な生活に関わりのある問題」は大問**5・7・9**である。表現力をみる問題として、理由を自分の言葉で説明する記述式の問題や、作図やグラフの問題を取り入れている。記述式は、昨年度の本検査5問に対し、本年度の本検査は4問である。作図やグラフは、昨年度の本検査と同様に2問である。

(2) 正答率の概況

抽出答案数=3,380

分 野 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	正 答 率 (%)
第 1 分 野	物 理	運動とエネルギー	1(4) 3点 61.2
		身近な物理現象	2 12点 43.2
		電流とその利用	8 10点 56.1
	化 学	身の回りの物質	1(1) 3点 66.5
		化学変化と原子・分子	4 10点 67.0
第 2 分 野	生 物	化学変化とイオン	6 12点 65.2
		生物の体のつくりと働き	1(2) 3点 86.4
		生命の連続性	3 10点 58.6
	地 学	いろいろな生物とその共通点	9 12点 67.0
		気象とその変化	1(3) 3点 67.3
		大地の成り立ちと変化	5 10点 54.0
	地球と宇宙	7 12点 63.9	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結果の説明

全体の平均点は60.7点で、前年度と比べて8.0点高くなった。

分野・内容別の正答率は、第1分野・化学の大問**4**「化学変化と原子・分子」、第2分野・生物の大問**9**「いろいろな生物とその共通点」が67.0%で最も高かった。一方、第1分野・物理の大問**2**「身近な物理現象」が43.2%と最も低かった。なお、大問**1**は各分野の基礎的・基本的な知識を問う小問集合であり、正答率の平均が70.4%であった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問**3**の(2)「哺乳類の特徴」、大問**7**の(1)「恒星の特徴」及び大問**8**の(1)「交流の特徴」であった。一方、正答率が低かった問題は、大問**2**の(2)(c)「台ばかりの目もり〔作図〕」、大問**3**の(4)「進化」及び大問**8**の(3)「コイルの周辺の磁界のようす」であった。

無答率が高かったのは、大問**5**の(4)「海岸段丘」、大問**2**の(2)(c)「台ばかりの目もり〔作図〕」及び大問**8**の(2)「磁力線」であった。

(4)問題の内容

問	問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
		選択	短答	記述				
1	(1)	溶液に溶けている物質		○		66.5	3.7	
	(2)	葉緑体		○		86.4	2.2	
	(3)	小笠原気団	○			67.3	0.1	
	(4)	平均の速さ〔計算〕	○			61.2	0.2	
2	(1)	作用点		○		74.7	1.7	
	(2)	(a)	台ばかりの目もり〔計算〕		○		39.6	2.9
		(b)	ばねののび〔計算〕		○		52.9	6.1
		(c)	台ばかりの目もり〔作図〕			○	5.7	11.5
3	(1)	シソチョウの特徴	○			64.1	0.1	
	(2)	哺乳類の特徴	○			93.6	0.1	
	(3)	コケ植物とシダ植物の特徴	○			54.3	0.3	
	(4)	進化			○	22.5	7.3	
4	(1)	化合物	○			74.9	0.1	
	(2)	化学反応式		○		66.8	8.0	
	(3)	鉄と硫黄の反応する質量比	○			82.4	0.8	
	(4)	鉄と硫黄の反応する質量〔計算〕		○		44.0	2.2	
5	(1)	侵食(浸食)		○		73.5	4.5	
	(2)	土砂の分類とチバニアンを含む時代区分	○			40.4	0.4	
	(3)	調べたことの考察	○			60.6	0.5	
	(4)	海岸段丘			○	41.3	12.2	
6	(1)	陽イオン	○			76.3	0.1	
	(2)	金属間の電子のやりとり		○		57.1	4.6	
	(3)	イオン化傾向	○			76.8	0.2	
	(4)	硫酸イオンの数の変化	○			50.7	0.7	
7	(1)	恒星の特徴			○	84.0	6.2	
	(2)	地球の自転	○			71.4	0.2	
	(3)	星の動き	○			65.1	0.4	
	(4)	ベテルギウスの動きと南中する時刻〔計算〕	○			35.0	0.4	
8	(1)	交流の特徴	○			83.0	0.4	
	(2)	磁力線		○		58.7	9.6	
	(3)	コイルの周辺の磁界のようす		○		34.5	2.3	
	(4)	電流を大きくしたときの方位磁針のようす〔作図〕			○	48.2	7.8	
9	(1)	葉のつき方			○	74.2	6.2	
	(2)	ルーペの使い方	○			82.3	0.7	
	(3)	合弁花	○	○		46.2	1.3	
	(4)	胞子と胞子のう		○		65.2	4.1	

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが該当の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

5 英 語 (本検査)

(1) 出題内容等

出題内容は、知識や理解力をみる基礎・基本の問題及び、活用・応用として「思考力・判断力・表現力」をみる問題を出題した。「思考力・判断力・表現力」をみる問題に該当するのは、大問**4**No.1①②、No.2①②、大問**6**(1)(2)、大問**7**(1)①、大問**7**(2)①、大問**8**(3)及び大問**9**(4)である。

大問**4**No.1①②、No.2①②はリスニング問題で、英語の文章を聞き、その内容について答える問題である。聞いた内容を理解した上で、空所に適切な語を補い、まとめの文を完成させる形式になっている。

大問**6**(1)(2)は英作文問題で、絵を見て状況を理解し、絵の中の人物の立場に立って思考・判断し、英文で適切に表現する問題であり、実践的なコミュニケーションをより強く意識した問題となっている。

大問**7**(1)①、大問**7**(2)①、大問**8**(3)及び大問**9**(4)は、英文から複数の情報を正しく読み取り、内容を理解したうえで思考・判断し、適切に表現する問題になっている。

(2) 正答率の概況

抽出答案数=3,377

領 域 ・ 内 容		問題・配点	正答率 (%)	
聞くこと (話すこと)	リスニングテスト (対話を聞いて答える)	1 9点	66.8	49.3
	リスニングテスト (聞いて絵を見て答える)	2 6点	78.9	
	リスニングテスト (対話やまとまりのある文章を聞いて答える)	3 6点	50.2	
	リスニングテスト (まとまりのある文章を聞いて答える) 単語のつづり	4 12点	21.0	
読むこと (話すこと)	短い文章の読解	7 18点	43.1	44.4※
	長い文章の読解	8 13点	38.2※	
	対話文の流れの理解	9 13点	52.6※	
書くこと (話すこと)	文法及び文構造	5 15点	52.6	50.2※
	英語による自己表現 (絵を見て状況を把握し、対話を完成する)	6 8点	44.1※	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結果の説明

全体の平均点は47.6点で、前年度と比べて11.1点低くなった。

領域・内容別の正答率は、聞くこと(話すこと)の「リスニングテスト(聞いて絵を見て答える)」が78.9%と最も高かった。一方、聞くこと(話すこと)の「リスニングテスト(まとまりのある文章を聞いて答える)単語のつづり」が21.0%と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問**2**のNo.1「対話を聞いて絵を選ぶ」及び大問**7**の(1)②「内容と合うグラフを選ぶ」であった。一方、正答率が低かったのは、大問**4**のNo.1②「文章を聞き、その内容を表す文の空欄に **enjoy** のつづりを完成する」及び大問**7**の(2)①「内容と合う英語を補充する」であった。

無答率が高かったのは、大問**9**の(4)「英語による自己表現(会話文の流れに合うよう表現する)」及び大問**4**のNo.2②「文章を聞き、その内容を表す文の空欄に **favorite** のつづりを完成する」であった。前年度に比して、聞くことの正答率が約15ポイント低下し、書くことの正答率も約18ポイント低下した。

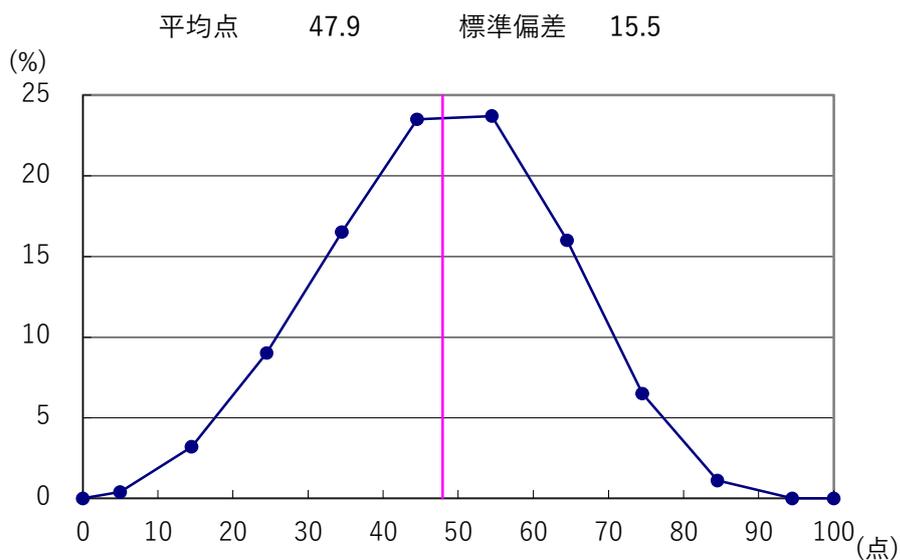
(4) 問題の内容

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選択	短答	記述			
1	No. 1	リスニング	対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○		75.0	0.1	
	No. 2		対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○		72.3	0.1	
	No. 3		対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○		53.0	0.1	
2	No. 1		対話を聞いて絵を選ぶ	○		91.5	0.1	
	No. 2		文章を聞いて絵を選ぶ	○		66.3	0.1	
3	No. 1		対話を聞いて英語を選ぶ	○		59.6	0.1	
	No. 2	文章を聞いて英語を選ぶ	○		40.7	0.4		
4	No. 1	①	文章を聞き、その内容を表す文の空欄に things のつづりを完成する		○	36.6	33.1	
		②	文章を聞き、その内容を表す文の空欄に enjoy のつづりを完成する		○	4.4	27.5	
	No. 2	①	文章を聞き、その内容を表す文の空欄に agree のつづりを完成する		○	19.1	34.8	
		②	文章を聞き、その内容を表す文の空欄に favorite のつづりを完成する		○	24.0	37.5	
5	(1)	文法・文構造	動詞 perform を名詞 performance にする		○	34.7	7.0	
	(2)		助動詞 will を過去形 would にする		○	69.8	5.2	
	(3)		語順整序 (She is good at making plans.)	○		46.5	0.3	
	(4)		語順整序 (Do you know someone looking for a towel?)	○		39.4	0.2	
	(5)		語順整序 (Will you show me the pictures you took on your trip?)	○		72.6	0.3	
6	(1)	自己表現	英語による自己表現 (絵を見て状況を表現する) (解答例) Let's go to a restaurant to eat something for dinner. (10語)		○	23.4	10.4	
			4点			39.4		
			1~3点					
	(2)		英語による自己表現 (絵を見て状況を表現する) (解答例) I've lost my key. Tell me what I should do. (10語)		○	25.3	11.3	
			4点			39.4		
			1~3点					
7	(1)	短文読解	内容と合う英語を補充する		○	28.6	10.8	
			②	内容と合うグラフを選ぶ	○		75.2	0.4
			③	内容と合う英語を選ぶ	○		49.7	0.4
			④	内容と合う英語を選ぶ	○		49.2	0.9
	(2)		①	内容と合う英語を補充する		○	6.7	12.8
			②	内容と合う英語を選ぶ	○		48.9	0.5
8	(1)	長文読解	内容と合う英語を選ぶ	○		46.0	0.5	
	(2)		文脈に合わせて英語を適切な場所に補充する	○		46.0	0.8	
	(3)		英語の質問に英語で答える		○	14.4	28.9	
			4点			17.9		
			1~3点					
(4)	内容と合う英語を選ぶ	○		37.6	1.2			
9	(1)	対話文読解・表現	文脈に合わせて英語を選ぶ	○		69.8	0.3	
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		64.3	0.4	
	(3)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		59.3	0.6	
	(4)		英語による自己表現 (会話文の流れに合うよう表現する) (解答例) If I try something first, my classmates will follow me. (10語)		○	8.4	43.5	
			4点			17.2		
	1~3点							
	無答							

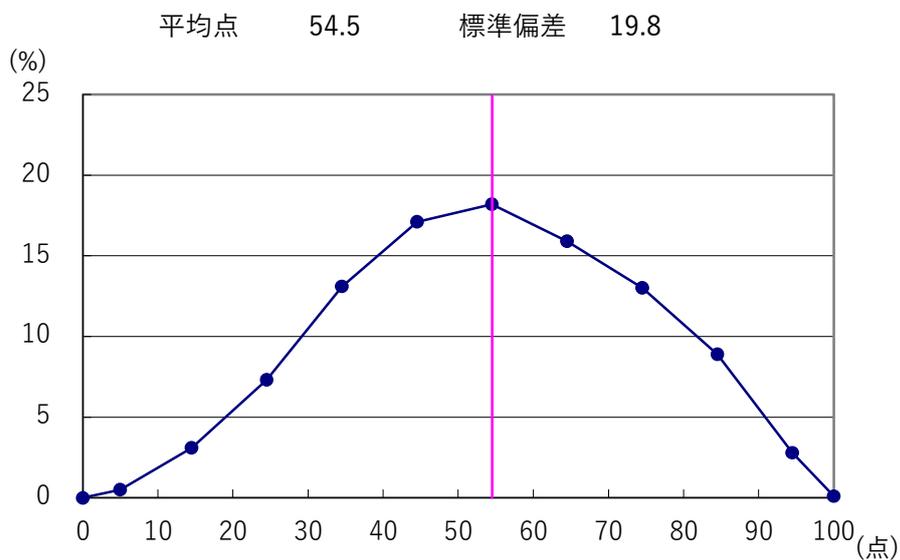
※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではある該当の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

IV 【本検査】受検者の得点分布

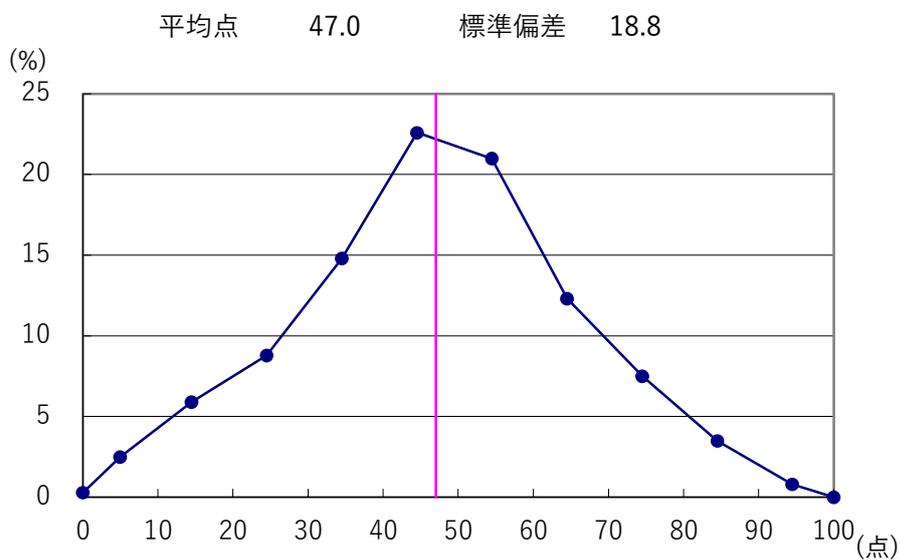
1 国語



2 社会

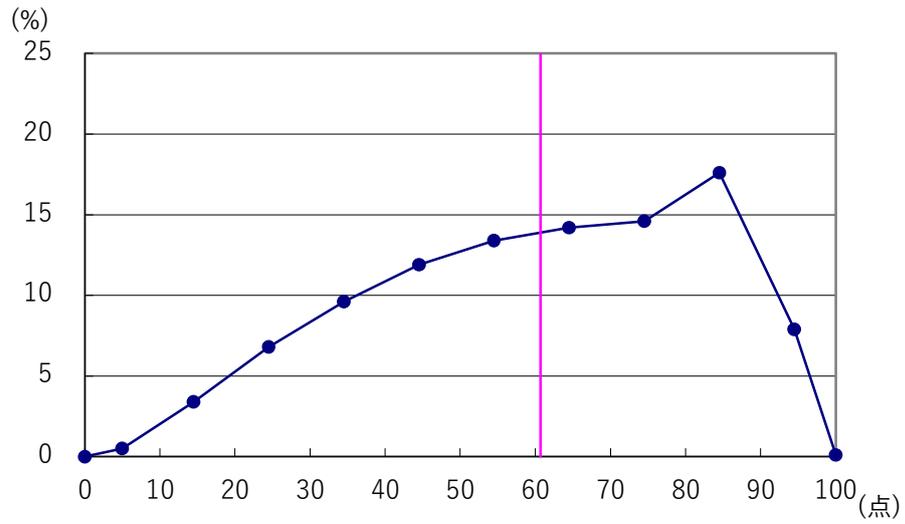


3 数学



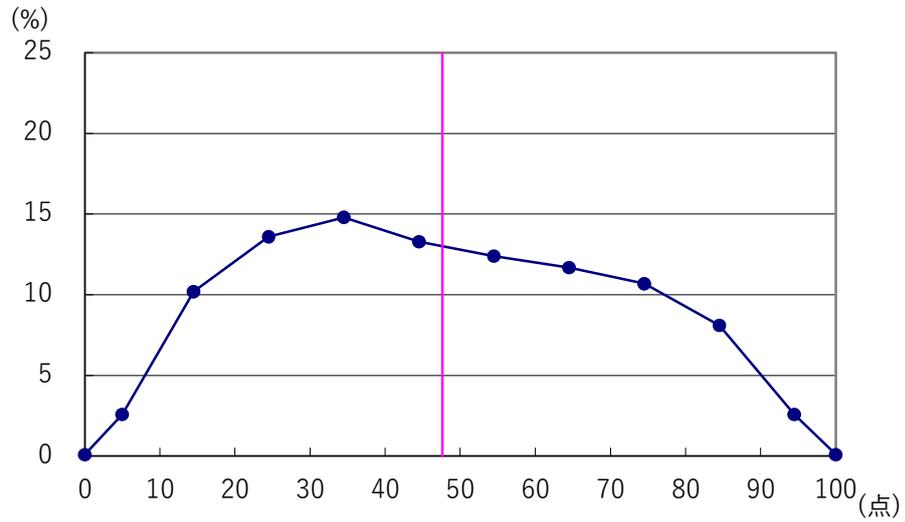
4 理科

平均点 60.7 標準偏差 21.9



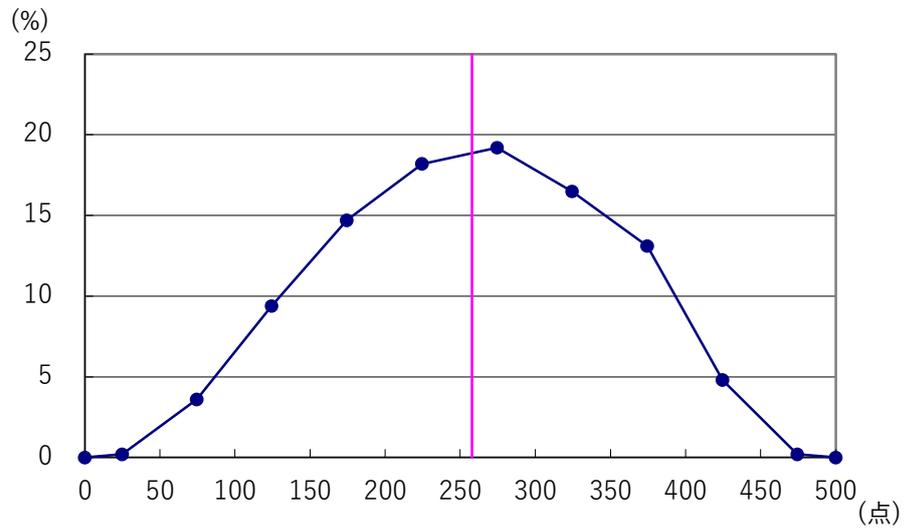
5 英語

平均点 47.6 標準偏差 23.2



6 5教科得点合計

平均点 257.7 標準偏差 90.6



V 【追検査】教科別の結果

1 国 語（追検査）

（1）出題内容等

学習指導要領の趣旨に沿って、基礎的・基本的な〔知識及び技能〕及び〔思考力・判断力・表現力等〕が適切にみられるようにした。

大問一（聞き取り検査）は、中学生二人が新聞部のインタビューの録音を聞きながら、「取材ノート」の内容を確認している場面を聞き、よりよい質問の仕方の工夫や他者に分かりやすく伝えるための方法を考える問題である。

大問四（説明的な文章）(5)は、結論部分の筆者の主張に至る論の筋道を段階的にまとめ、表現する問題であり、大問五（文学的な文章）(5)及び大問六（古典）(5)は授業でそれぞれの文章を読んだ生徒の話合いの場面を別資料として提示し、複数資料の分析を通じてさらに深く読み解き、適切に自分の考えを表現する力をみる問題である。

大問七（条件作文）は、【音楽と心】というテーマで、二人の生徒が先人たちの言葉に、悲しいときの対応方法について対話している場面を読み、自分の身の回りから題材を決め、根拠を明確にししながら自分の考えが伝わる文章になるように工夫して書く問題である。

領 域（事 項）	問 題・配 点
言葉の特徴や使い方に関する事項	二、三、五(2) 20点
情報の扱い方に関する事項	一(2)、五(5)、六(5) 16点
我が国の言語文化に関する事項	六 (1)(2)(3)(4) 9点
話すこと・聞くこと	一 (1)(3)(4) 8点
書くこと	七 12点
読むこと	四、五(1)(3)(4) 35点

(2) 問題の内容

問		問題の内容	問題形式					
			選択	短答	記述			
一	(1)	放送による聞き取り 新聞部のインタビュー内容を確認している場面	会話の流れの理解	<input type="radio"/>				
	(2)		会話の流れの理解	<input type="radio"/>				
	(3)		状況に応じた質問の仕方についての理解	<input type="radio"/>				
	(4)		状況に応じた質問の仕方についての理解 (15字以上、20字以内)			<input type="radio"/>		
二	(1)	漢字(読み)	飽(きる) [あ]		<input type="radio"/>			
	(2)		奨励 [しょうれい]		<input type="radio"/>			
	(3)		循環 [じゅんかん]		<input type="radio"/>			
	(4)		処方箋 [しょほうせん]		<input type="radio"/>			
三	(1)	漢字(書き)	似(た)		<input type="radio"/>			
	(2)		焼(く)		<input type="radio"/>			
	(3)		血統		<input type="radio"/>			
	(4)		財団		<input type="radio"/>			
	(5)		快刀		<input type="radio"/>			
四	(1)	説明的な文章 『いつもの言葉を哲学する』	文章中の表現の効果	<input type="radio"/>				
	(2)		文章の内容の理解と表現 (15字以上、20字以内)			<input type="radio"/>		
	(3)		文章の内容の理解	<input type="radio"/>				
	(4)		文章の内容の理解	<input type="radio"/>				
	(5)		(a)	I	文章の内容の理解(4字)		<input type="radio"/>	
				II	文章の内容の理解	<input type="radio"/>		
				III	文章の内容の理解(3字)		<input type="radio"/>	
	(b)		①	文章の内容の理解	<input type="radio"/>			
			②	文章の内容の理解と表現 (20字以上、30字以内)			<input type="radio"/>	
五	(1)	文学的な文章 『おむすび狂詩曲』	登場人物の心情の理解	<input type="radio"/>				
	(2)		敬語の理解		<input type="radio"/>			
	(3)		文章の内容の理解と表現 (20字以上、25字以内)			<input type="radio"/>		
	(4)		I	登場人物の心情の理解と表現 (10字以上、15字以内)			<input type="radio"/>	
				II	文章の内容の理解(4字)		<input type="radio"/>	
				III	登場人物の心情の理解と表現 (6字以上、10字以内)			<input type="radio"/>
	(5)		(b)	(a)	文章中の表現の理解	<input type="radio"/>		
				I	文章中の表現の理解(1字)		<input type="radio"/>	
					II	文章中の表現の理解(2字)		<input type="radio"/>
				(c)	文章中の表現の理解	<input type="radio"/>		
六	(1)	古典 『古事談』	歴史的仮名遣い		<input type="radio"/>			
	(2)		文章中の表現の理解	<input type="radio"/>				
	(3)		漢文訓読法	<input type="radio"/>				
	(4)		文章の内容の理解と表現 (10字以上、15字以内)			<input type="radio"/>		
	(5)		(a)	文章の内容の理解と表現 (20字以上、25字以内)			<input type="radio"/>	
			(b)	文章の内容の理解(7字)		<input type="radio"/>		
七	条件作文 【音楽と心】の2つの考え方の、心に及ぶ効果について	2種類の引用文を踏まえての二段落構成の作文(200字以内) ・前段は2種類の引用文のそれぞれについて、心にどのような効果があると考えられるかを書く。 ・後段は前段に関連させて、自分の体験を踏まえて自分の考えを書く。			<input type="radio"/>			

2 社 会 (追検査)

(1) 出題内容等

各分野において、「基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができる問題」を出題した。

「現代社会の諸課題に対する関心や理解の程度をみることができる問題」を多く出題した。具体的には、大問 **1(3)(4)**、大問 **6(1)(2)(3)**、大問 **7(1)(3)**、大問 **8(2)**である。

「諸資料を活用し、社会的事象を判断・分析する力をみることができる問題」を多く出題した。具体的には、大問 **1(4)**、大問 **2(2)**、大問 **3(2)(3)(4)**、大問 **6(3)**、大問 **7(1)(3)**、大問 **8(1)(2)**である。

「社会的事象について思考・表現する力をみることができる問題」を、地理的分野、歴史的分野、公民的分野からそれぞれ1問ずつ出題した。具体的には、大問 **2(3)**、大問 **4(1)**、大問 **7(3)**である。

総合問題と歴史的分野において、できごとなどを年代の古いものから順に並べ替える問題を、本検査と同様に、総合問題から1問、歴史的分野から2問出題した。具体的には、大問 **1(2)**、大問 **4(4)**、大問 **5(1)**である。

分 野 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	
総 合	総 合 問 題	1	12点
地 理 的 分 野	日 本 地 理	2	16点
	世 界 地 理	3	15点
歴 史 的 分 野	前 近 代 史	4	16点
	近 ・ 現 代 史	5	15点
公 民 的 分 野	国民生活と経済・社会	6	10点
	日本の政治制度	7	10点
	国際社会	8	6点

(2) 問題の内容

問	問題の内容		問題形式					
			選択	短答	記述			
1	(1)	総合問題	都市の過密化		○			
	(2)		権利に関する歴史		○			
	(3)		男女雇用機会均等法			○		
	(4)		日本の人口構成の変化、育児休業制度の企業規模別の整備率、日本の育児休業の取得状況、育児休業を取得しなかった理由の資料に関する読み取り		○			
2	(1)	日本地理	都道府県と都道府県庁所在地（水戸市）			○		
	(2)		日本と世界の河川		○			
	(3)		愛知県の農業についての記述				○	
	(4)		①	地形図の方位や地図記号等の読み取り		○		
			②	地域調査の手法		○		
3	(1)	世界地理	正距方位図法の特徴			○		
	(2)		乾燥帯の植生と景観		○			
	(3)		ヨーロッパの気候の特徴		○			
			地中海式農業			○		
(4)	アメリカ合衆国、オーストラリア、ブラジルと日本の家畜頭数（羽数）、牧場・牧草地の面積に関する資料の読み取り		○					
4	(1)	前近代史	冠位十二階に関する記述				○	
	(2)		平清盛		○			
	(3)		琉球王国について		○			
	(4)		江戸時代の貿易について		○			
	(5)		正倉院			○		
5	(1)	近・現代史	日本経済について		○			
	(2)		北海道の開拓			○		
	(3)		日清戦争後の事件		○			
	(4)		日中戦争の日本と中国		○			
	(5)		アジア・アフリカ会議		○			
6	(1)	経済	為替レート		○			
	(2)		関税			○		
	(3)		二人以上の世帯の消費とインターネットを利用した支出に関する資料の読み取り		○			
7	(1)	政治	自己決定権			○		
	(2)		参政権		○			
	(3)		三審制			○		
			三審制が設けられている理由についての記述				○	
8	(1)	国際	国際連合の加盟国の推移		○			
	(2)		PKO			○		

3 数 学 (追検査)

(1) 出題内容等

大問1は、各領域の基本的な問題である。

大問2の(3)は、2つの三角形が相似になるときの点の座標を求める問題である。

大問3は、2つの三角形が合同であることを証明するとともに、三平方の定理を用いて線分の長さを求める問題である。

大問4は、黒と白2色の正三角形を並べたときの面積等について、会話文や表から正確に情報を読み取り、文字を用いた式や言葉で表現する問題である。

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	
数 と 式	正の数と負の数	1(1)①	5点
	文字を用いた式	1(1)② (5)①、 4(1)(c) (d) (2)	18点
	正の数の平方根	1(1)③	5点
	比 例 式	1(2)①	3点
	二 次 方 程 式	1(2)②、4(3)	7点
図 形	平 面 図 形	1(4)① (7)①②、 3(3)、4(1)(a) (b)	18点
	空 間 図 形	1(4)②	3点
	図 形 の 合 同	3(1)(2)	11点
関 数	一 次 関 数	1(6)①②	6点
	関 数 $y = ax^2$	2(1)(2)(3)	15点
データの活用	データの分布	1(3)①②	6点
	不確定な事象の 起こりやすさ	1(5)②	3点

(2) 問題の内容

問		問題の内容		問題形式			
				選択	短答	記述	
1	(1)	①	数と式	正の数と負の数 (四則計算)		○	
		②		文字を用いた式 (単項式の乗法と除法)		○	
		③		正の数の平方根 (平方根を含む式の計算)		○	
	(2)	①	数と式	比例式 (比例式の性質)	○		
		②		二次方程式 (解の公式)		○	
	(3)	①	データ	データの分布 (最頻値)		○	
		②		データの分布 (平均値)		○	
	(4)	①	図形	平面図形 (三平方の定理)		○	
		②		空間図形 (立体の体積)		○	
	(5)	①	数と式	文字を用いた式 (式の変形)		○	
		②	データ	不確定な事象の起こりやすさ (確率)		○	
	(6)	①	関数	一次関数 (交点の座標)		○	
		②		一次関数 (一次関数の傾き)		○	
	(7)	①	図形	平面図形 (相似な図形の面積比)		○	
②		平面図形 (作図)				○	
2	(1)	関数	関数 $y = ax^2$ (2点を通る直線の式)		○		
	(2)		関数 $y = ax^2$ (点の座標)		○		
	(3)		関数 $y = ax^2$ (点のy座標)		○		
3	(1)	図形	図形の合同	○	○		
	(2)		6点	図形の合同 (三角形の合同の証明)			○
			3点				
			無答				
(3)	平面図形 (三平方の定理)		○				
4	(1)	(a)	数と式	平面図形 (正三角形の面積)		○	
		(b)		平面図形 (正三角形の面積)		○	
		(c)		文字を用いた式		○	
		(d)		文字を用いた式		○	
	(2)	4点	数と式	文字を用いた式			○
		2点					
		無答					
(3)	二次方程式		○				

4 理 科 (追検査)

(1) 出題内容等

学習指導要領に基づいて、基礎的・基本的な知識・技能の習得、科学的なものの見方や思考力・判断力・表現力を身に付けているかをみることができるようにした。本年度も「観察、実験を題材とした問題」、「身近な生活に関わりのある問題」を出題した。小問集合以外では、「観察、実験を題材とした問題」は大問 2・3・4・5・6・7・8・9、「身近な生活に関わりのある問題」は大問 5・7・9 である。表現力をみる問題として、理由を自分の言葉で説明する記述の問題や、作図やグラフの問題を取り入れている。記述式は、本年度の本検査 4 問に対し、本年度の追検査は、本検査と同様に 4 問である。作図やグラフは、本年度の本検査 2 問に対し、本年度の追検査は、本検査と同様に 2 問である。

		分 野 ・ 内 容	問 題 ・ 配 点	
第 1 分 野	物 理	電流とその利用	1(4)	3 点
		身近な物理現象	4	1 2 点
		運動とエネルギー	6	1 0 点
	化 学	化学変化とイオン	1(1)	3 点
		身の回りの物質	2	1 0 点
		化学変化と原子・分子	8	1 2 点
第 2 分 野	生 物	いろいろな生物とその共通点	1(2)	3 点
		生物の体のつくりと働き	5	1 0 点
		生命の連続性	7	1 2 点
	地 学	地球と宇宙	1(3)	3 点
		大地の成り立ちと変化	3	1 0 点
		気象とその変化	9	1 2 点

(2) 問題の内容

問	問題の内容	問題形式		
		選択	短答	記述
1	(1) 塩化物イオン	○		
	(2) 単子葉類の特徴	○		
	(3) 太陽系	○		
	(4) オームの法則〔計算〕		○	
2	(1) ① 融点の求め方			○
		② 物質の融点と混合物	○	
	(2) 粒子の並び方、物質の状態と粒子のモデル	○		
	(3) 物質の融点	○		
3	(1) 火山ガス	○		
	(2) 火山噴出物	○		
	(3) 粘性と火山の形	○		
	(4) 粘性の違いによる噴火のようす			○
4	(1) 音波の波形〔計算〕		○	
	(2) オシロスコープの波形	○		
	(3) ① 振幅		○	
		② 弦の長さ、弦を張る強さと振動数		○
5	(1) 呼吸の仕組み	○		
	(2) 肺胞の数が多いことによる利点			○
	(3) 細胞の呼吸	○		
	(4) ヒトの呼気に含まれる気体		○	
6	(1) 力のつり合い〔作図〕			○
	(2) ① 仕事の原理	○		
		② 仕事率〔計算〕		○
	(3) 仕事の原理と仕事率〔計算〕		○	
7	(1) 顕性形質と潜性形質		○	
	(2) ① 分離の法則		○	
		② 種子Sの染色体のようす	○	
	(3) 無性生殖で子の形質が親の形質と同じになる理由			○
8	(1) 化学反応式		○	
	(2) (a) 質量保存の法則		○	
		(b) 反応する原子の組み合わせ、種類、数	○	
	(3) (a) 発生する気体の量〔作図〕			○
(b) 反応しないで残る炭酸水素ナトリウムの量〔計算〕			○	
9	(1) 物体にはたらく力	○		
	(2) 圧力	○		
	(3) 大気圧がゴム板を押す力〔計算〕		○	
	(4) 力のつり合いと大気圧		○	

5 英 語（追検査）

（1）出題内容等

出題内容は、知識や理解力をみる基礎・基本の問題及び、活用・応用として「思考力・判断力・表現力」をみる問題を出題した。「思考力・判断力・表現力」をみる問題に該当するのは、大問**4**No.1②、No.2②、大問**6**(1)(2)、大問**7**(1)③、大問**7**(2)①、大問**8**(3)及び大問**9**(4)である。

大問**4**No.1②、No.2②はリスニング問題で、英語の文章を聞き、その内容について答える問題である。聞いた内容を理解した上で、空所に適切な語を補い、まとめの文を完成させる形式になっている。

大問**6**(1)(2)は英作文問題で、絵を見て状況を理解し、絵の中の人物の立場に立って思考・判断し、英文で適切に表現する問題であり、実践的なコミュニケーションをより強く意識した問題となっている。

大問**7**(1)③、大問**7**(2)①、大問**8**(3)及び大問**9**(4)は、英文から複数の情報を正しく読み取り、内容を理解したうえで思考・判断し、適切に表現する問題になっている。

領 域 ・ 内 容		問題・配点	
聞くこと (話すこと)	リスニングテスト（対話を聞いて答える）	1	9点
	リスニングテスト（聞いて絵を見て答える）	2	6点
	リスニングテスト (対話やまとまりのある文章を聞いて答える)	3	6点
	リスニングテスト（まとまりのある文章を聞いて答える） 単語のつづり	4	12点
読むこと (話すこと)	短い文章の読解	7	18点
	長い文章の読解	8	13点
	対話文の流れの理解	9	13点
書くこと (話すこと)	文法及び文構造	5	15点
	英語による自己表現（絵を見て状況を把握し、対話を完成する）	6	8点

(2) 問題の内容

問		問題の内容		問題形式		
				選択	短答	記述
1	No. 1	リ	対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	<input type="radio"/>		
	No. 2		対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	<input type="radio"/>		
	No. 3		対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	<input type="radio"/>		
2	No. 1	ス	対話を聞いて絵を選ぶ	<input type="radio"/>		
	No. 2		文章を聞いて絵を選ぶ	<input type="radio"/>		
3	No. 1	ニ	対話を聞いて英語を選ぶ	<input type="radio"/>		
	No. 2		文章を聞いて英語を選ぶ	<input type="radio"/>		
4	No. 1	グ	① 文章を読み、その内容を表す文の空欄に special のつづりを完成する		<input type="radio"/>	
			② 文章を読み、その内容を表す文の空欄に wait のつづりを完成する		<input type="radio"/>	
	No. 2		① 文章を読み、その内容を表す文の空欄に exciting のつづりを完成する		<input type="radio"/>	
			② 文章を読み、その内容を表す文の空欄に twice のつづりを完成する		<input type="radio"/>	
5	(1)	文法・文構造	動詞 choose を過去形 chose にする		<input type="radio"/>	
	(2)		名詞 child を複数形 children にする		<input type="radio"/>	
	(3)		語順整序 (Do you have anything cold to drink?)	<input type="radio"/>		
	(4)		語順整序 (I wish I could have a dog.)	<input type="radio"/>		
	(5)		語順整序 (Are you talking about that girl who has short hair?)	<input type="radio"/>		
6	(1)	自己表現	英語による自己表現 (絵を見て状況を表現する) (解答例) The train has just stopped. What should I do now? (10語)			<input type="radio"/>
	(2)		英語による自己表現 (絵を見て状況を表現する) (解答例) Because there were too many people at the bus stop. (10語)			<input type="radio"/>
7	(1)	短文読解	① (A) 内容と合う英語を選ぶ	<input type="radio"/>		
			(B) 内容と合う英語を選ぶ	<input type="radio"/>		
			② 内容と合っていない英語を選ぶ	<input type="radio"/>		
	(2)		③ 英語の質問に対する答えの文に合う英語を補充する		<input type="radio"/>	
			① 内容と合う英語を補充する		<input type="radio"/>	
			② 内容と合う英語を選ぶ	<input type="radio"/>		
8	(1)	長文読解	主題と合う英語を選ぶ	<input type="radio"/>		
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ	<input type="radio"/>		
	(3)		英語の質問に英語で答える			<input type="radio"/>
	(4)		内容と合う英語を選ぶ	<input type="radio"/>		
9	(1)	対話文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ	<input type="radio"/>		
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ	<input type="radio"/>		
	(3)		文脈に合わせて英語を選ぶ	<input type="radio"/>		
	(4)	自己表現	英語による自己表現 (会話文の流れに合うよう表現する) (解答例) I want to be like the nurses who helped you. (10語)			<input type="radio"/>

VI 指導のポイント

令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果から、「本県の生徒に身に付けさせたい力」を踏まえた指導のポイントを教科ごとにまとめた。確かな学力の定着を図るために、今後の学習指導方法の工夫や授業改善に御活用願いたい。

1 国語

- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」
「我が国の言語文化に関する事項」

【分析】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」においては、概ね正答率は良好であるが、文脈から言葉の意味を思考・判断し、最も適当な漢字を書く力が不十分であると考えられる。「情報の扱い方に関する事項」は正答率が低く、特に本検査の大問四(5)Ⅲ及び大問五(5)(c)Ⅹは無答率も高い。特に文学的文章では、複数の文章を読み合わせながら、登場人物の置かれている状況等を理解し、自分の言葉で表現することに課題がみられる。「我が国の言語文化に関する事項」の大問六(1)の歴史的仮名遣いの正答率はここ数年安定しているが、前後の文脈から主語を正確に読み取ることや、文章の表現から登場人物の行動について思考し、表現する力が不十分である。

【指導のポイント】

漢字の指導において、日常の言語活動を振り返る場面を設定し、言葉の特徴やきまりなどに気付かせ、文脈によって適切に使いこなせるように習熟させることが大切である。「情報の扱い方に関する事項」については、複数資料の情報を適切に把握し、条件に従って表現するために、情報と情報との様々な関係を図式化するなど、情報を整理して自分の考えの形成に生かしていくことが大切である。また、「読むこと」の指導と関連させて、内容を解釈するために、文章と図表との関連を確認し、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取らせる指導も併せて行うことが重要である。

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」

【分析】

本検査における「話すこと・聞くこと」の正答率はここ数年安定している。「書くこと」の条件作文では昨年度の本検査より正答率が低い。与えられた条件に沿って資料を分析し、自分の意見を理由とともに記述することに課題がみられる。「読むこと」については、本検査の大問五(2)Ⅰの記述問題の正答率が低い。文章の内容を理解して適切に自分の言葉で表現することに課題がみられる。

【指導のポイント】

「話すこと・聞くこと」に関しては、日々の授業の中で積極的な取組を継続していくことが大切である。「書くこと」及び「読むこと」の指導においては、説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動を通して、自分の言葉でまとめ、記述させる指導が必要である。加えて、今後も記述力を向上させるために、日頃から授業のまとめや感想を短い文章で表す場を設け、記述すること自体への抵抗感を緩和する取組を継続していくことが望まれる。

2 社会

○「地理的分野」

【分析】

地理的分野の全体にわたり、概ね正答率は良好である。「現代社会の諸課題に対する理解の程度をみることができる問題」として出題した都市部の防災施設について答える問題（大問 2 (2)）の正答率が高い。一方で、世界地図の特徴と読み取りに関する問題（大問 3 (1)）では正答率が低い。

【指導のポイント】

基礎的・基本的な知識や地図の特性を理解し、地図や資料活用の技能の定着を図り、それらを基に諸資料を活用する力を身に付けさせることが大切である。景観写真や統計資料、主題図等から地理的事象や地域的特色を読み取らせる活動を通して、さまざまなことがらに視野を広げ、読み取ったことを相互に関連付けて考察することで、地理的事象の仕組みや原因、他地域との関わりなどについて理解させることが大切である。

○「歴史的分野」

【分析】

歴史的分野の全体にわたり、概ね正答率は良好である。基礎的・基本的な知識・技能では、岩倉使節団について答える問題（大問 5 (1)）の正答率が高い。一方で、指定された語句を用いて歴史的事象について自らの言葉で説明する問題（大問 5 (4)）の正答率が低く、無答率も高い。

【指導のポイント】

歴史の大きな流れをつかみ、基礎的・基本的な知識の定着を図ることが大切である。それぞれの関連性や因果関係などを理解するために、歴史的な見方・考え方を働かせ、年表や図を用いて簡潔に自分の言葉でまとめ、表現する活動が有効である。また、歴史的事象が起きた要因について経緯を整理し、考察させられるように指導することが大切である。

○「公民的分野」

【分析】

公民的分野の全体にわたり、概ね正答率は良好である。基礎的・基本的な知識・技能では、消費者を守る制度について答える問題（大問 6 (1)）で正答率が高い。一方で、指定された語句を用いるなどして自らの言葉で説明する問題（大問 7 (3)）で正答率が低く、無答率も高い。

【指導のポイント】

主権者教育の観点から、新聞やインターネットなどを活用して、時事的な問題への興味・関心を高めることや、複数の資料を活用し、さまざまな公民的事象と関連付けて学習を深めることが大切である。例えば、授業の内容と関連した新聞記事を用い、社会の動きと学習内容とを関連付けて考えさせる活動を通して、社会的事象について自らの言葉で要約し、それに対する自分の意見を書かせる指導が必要である。

3 数 学

○「数と式」

【分析】

正の数と負の数（四則計算）、簡単な多項式の計算については正答率が概ね良好であるが、大問 1 (2)②の根号を含む式の計算、大問 4 の文字を用いた式、特に式やことばを用いて表現することに課題がみられる。

【指導のポイント】

数を拡張しながらその概念について理解を深めるとともに、文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりするなど、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる指導が大切である。また、具体的な事象の数量関係から方程式を立てたり、その解を吟味したりするなど、事象と関連付ける活動をより一層充実させる必要がある。

さらに、式やことばを用いて他者に説明するような場面を積極的に設けることが大切である。

○「図形」

【分析】

円周角と中心角の関係については正答率が概ね良好であるが、大問 1 (7)の作図や大問 3 (2)の証明問題、大問 3 (3)の平面図形（相似の応用）については課題がみられる。

【指導のポイント】

観察や操作などの活動を通して、見通しをもって作図したり図形の関係について調べたりするなど、考察を促す指導が必要である。また、証明問題については、証明を振り返り、条件がどのように用いられていたかを確認するといったような活動を通して、論理的に考察する力を養うことが大切である。

○「関数」

【分析】

点の座標については正答率が概ね良好であるが、大問 2 (2)のような思考力を問う問題には課題がみられる。

【指導のポイント】

具体的な事象を数学的に解釈し、変化の特徴を見いだしたうえで、式やグラフなどを用いながら他者に説明するような場面を積極的に設けることで、思考力、判断力、表現力を育てることが大切である。

○「データの活用」

【分析】

度数分布表と箱ひげ図の正答率は概ね良好であるが、場合の数や確率において課題がみられる。

【指導のポイント】

起こり得る場合の数や確率を、日常の事象を題材として取り上げ指導することが必要であり、話し合いをする機会を設けることで理解を深めることが大切である。

4 理 科

○「第1分野・物理的領域」

【分析】

基礎的・基本的な知識・技能の正答率は良好である。実験装置を理解し、実験結果を正確に読み取り、知識を活用しながらグラフで表現する問題（大問2(2)(c)）や、思考する問題（大問8(3)）で正答率が低い。

【指導のポイント】

実験装置を思考しながら組み立て、実験結果を基に視覚的に捉えにくい仕組みを理解させる。また、実験結果をグラフや図で表現して考察させることで、物理現象について理解を深めさせることが大切である。

○「第1分野・化学的領域」

【分析】

基礎的・基本的な知識・技能の正答率は良好である。反応前後の物質の量について化学反応式や実験結果をもとに考察する問題（大問4(4)）で正答率が低い。

【指導のポイント】

化学変化について、実験を行い、反応を化学反応式で表現させる。また、反応前後の物質の量について計算し、グラフ化させることで、化学変化について理解を深めさせることが大切である。

○「第2分野・生物的領域」

【分析】

基礎的・基本的な知識・技能の正答率は良好である。進化の特徴を文章で表現する問題（大問3(4)）や、体のつくりの分類とその具体例についての問題（大問9(3)）で正答率が低い。

【指導のポイント】

生物の進化や分類などのように、観察や実験で得られた結果を整理し、用語を正確に用いながら、既習の知識と関連付けて記述させることで、生物現象について理解を深めさせることが大切である。

○「第2分野・地学的領域」

【分析】

基礎的・基本的な知識・技能の正答率は良好である。資料や文章で表現された地学現象を正確に読み取り、既習の知識を活用して思考し、計算する問題（大問7(4)）で正答率が低い。

【指導のポイント】

実験や観測の仕組みを作図するなどして理解し、実験や観測結果を活用して学習させる。数時間後、数ヶ月後の天体の位置のように、地学現象の時間的・空間的な変化について、作図や計算をさせることで理解を深めさせることが大切である。

5 英語

○「聞くこと（話すこと）」

【分析】

基礎的・基本的な知識及び技能の定着は概ね良好である。大問 4 は、英語の文章を聞き、その内容に関するまとめの文やメモの空欄を、聞き取った内容を別の表現に換えて補う問題であるが、無答率が高い。

【指導のポイント】

授業中のコミュニケーション活動において、様々な場面や状況を設定したり、発問のパターンを変えたりするなどの工夫を凝らすことで、対話や文章の内容を正確に聞き取り、その要旨をつかむ力を育むことが大切である。さらに、聞き取った内容を自分の言葉に言い換える力を身に付けさせたい。

○「読むこと（話すこと）」

【分析】

大問 7 及び 8 の読解では、プレゼンテーションの原稿やレポートなどを読み、文脈に合わせて英語を補充する問題及び英語の質問に英語で答える問題についての正答率が低い。また、大問 9 (4)「英語による自己表現」は、対話文を読み取り、その対話の流れに沿うよう話者の発言を補って対話を完成させる問題であるが、無答率が高い。

【指導のポイント】

文の流れをつかみながら正確に読む力を身に付けるために、ディスコースマーカー（because、however、for example など）を意識し、グラフや図などもヒントとしながら読む練習を取り入れるなどの工夫が必要である。さらに、様々な話題の英文に触れることで、それぞれの英文から読み取れる情報を表にするなどして整理する力や、段落ごとの要旨をつかむ力を身に付けさせることが大切である。

○「書くこと（話すこと）」

【分析】

大問 6 は、4 コマのイラストからその場面や状況をとらえ、会話を完成させる問題であるが、無答率が高い。

【指導のポイント】

無理に難しい単語を用いようとせず、知っている単語や文法を駆使して、意図する内容を表現することができるよう指導していくことが大切である。単元ごとに本文の内容をまとめさせたり、1 枚の絵を見せてそれを説明させたりする活動を通して、自らの言葉で意図する内容を表現する方法を習得させる必要がある。また、英語の 1 行日記をつけるなど、日常的に英語を用いて、情報や気持ちなどを書かせる機会を増やしたい。